

広報 鳥海の里

題字 開成園かえで寮 沢口金男さん

第119号 平成16年1月15日

発行 秋田県心身障害者
コロニー保護者会

ホームページアドレス <http://www.fukinoto.or.jp/colony> E-mail colony@fukinoto.or.jp

保護者会事務局

TEL(0184)32-1082 FAX(0184)32-1083

秋田県心身障害者コロニー

秋田県由利郡西目町出戸字孫七山3の2

生産品直売所「歩人」TEL(0184)33-4310

TEL(0184)33-2255 FAX(0184)33-2044

地域生活サポートセンター「歩人」TEL・FAX(0184)32-0123



今年もよろしく
お願いひします



創作クラブ ちぎり絵



新年あいさつ会

主な内容

- *年頭のあいさつ……………2
- *育成会全国大会・役員研修会…3
- *日々・ア・ラ・カルト……4～5
- *ソフト食ってなに?……………6
- *入浴介助体験研修・国際福祉機器展…7
- *全国グループホーム大会他……8



創作クラー

創生園 創作クラブ作品



年頭にあたつて

保護者会会長 田口良一

新年あけましておめでとうございます。会員皆様には、益々御健勝で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は障害者福祉サービスの新たな利用制度である「支援費制度」がスタートするとして注目された年でした。

この新しい制度が一年経過しようとしている今、どんな課題が提起されたのか検証してみたいと思います。目玉である支援費制度は、半年経過しただけで、国の補助金が五十億円も不足する見通しとなり、事業実施主体である市町村をあわてさせています。その原因是、地域生活支援や在宅介護のためのホームヘルプサービス、ガイドヘルプサービスの利用が急増したためと説明されています。

そもそも国は、施設福祉から地域福祉、在宅福祉へと政策転換を図っていることから、この面のニーズが増えることは当然予想されたことであり、店開き早々お金がないでは利用者が希望するサービスが受けられないという事態も予想され、この改革が国の財政危機の延長線上にあるのではないかとの当初の懸念が現実のものとなつたという感は否めません。

一方この改革はコロニーのあり方を大きく変えようとしています。

群馬県高崎市にある国立コロニーは独立行政法人となり、一部入所者を出身地域に帰して地域生活へ移行させると発表し波紋を広げています。

地方コロニーのモデルとされてきた国立コロニーにメスを入れたことは施設福祉から地域福祉への国の姿勢を示すねらいがあると思われるが、さっそく県立コロニーを解体して入所者の全面地域生活への移行を決定したところも出てきています。従つてこうした流れは早晚秋田県コロニーにも押し寄せることが予想されます。

しかし、今の地域社会に知的障害者を受け入れる体制が整っていないことも事実であります。それだけに、家族の心配や不安も大きいものがあります。知的障害者が地域社会で安全に安心して生活出来る受け皿が必要です。どこに住み、誰が支え、どこで働き、どこで日中活動するのか、お金は大丈夫なのか等々、解決が急がれている課題が山積しています。この課題解決のために、保護者会、福祉関係者の行動が求められています。時代に入つていると痛感した一年であつたと思っています。

新年も障害者の福祉向上のために、保護者会への一層の結束をお願いし、新年のごあいさつと致します。

みなさま
よい一年で
ありますように



木工科 招福干支



窯業科 干支土鉢



11/
29~30

育成会全国大会に参加して

昨年十一月、香川で行なわれた育成会の全国大会に参加させていただきました。当然の事ながら、規模の大きさには驚きました。当保護者会からは、田口会長さんと立原さんと私の三名でした。

私が参加した第五分科会は、「契約制度と施設」の内容の為、総勢三千五百名中八百十五名が県民ホールに集りました。大変充実した内容でした。ある方は、施設から契約書を黙つて出され、ハンコを押してほしいの一言で、理事長との面会の申し込みを入れても、二、三ヵ月も会えない状態だと話していました。私は説明を受け納得して契約した事を思うと、今時まだそんな所もあるのかとういう驚きが先に立ちました。

また、判定がAからBになり不服申し立てをして元に戻ったとか、不服申し立てをしなかつた場合は次回更新まで待つしかないという話の時に、本人の方が「AとかBとかって、一体何なんですか?」の一言に思わず司会者も即答出来ないでいたのが印象的でした。そして、これからは親の会が施設と対等に向き合つて話をしていく事が一番重要であるとい

う話でした。

翌日の全体会は「親離れ・子離れについて」でした。親がいつまでも子供扱いしていると子供は成長出来ないし、施設を出たいと思っている時は背中を押してほしいと真剣に話ををしておりましたが、知的障害者の中で自分の意志を話せる人は少なく、重複障害を抱えている人にとってはなかなか難しい事です。

私は地域に出てやれる事はやりながら、うまく出来ない事は施設の中で訓練しながら育てていければいいと思います。会社で働く人間が、上司を選べないように、障害を持つて生まれた子供も、親や障害の内容、程度を選ぶ事は出来ません。子供に「まあこんな親でも合格点あげてやるか」と思ってくれるようにこれから頑張りたいです。

今回初めての方々とツアーチームでの研修でしたが、同行された皆様方から教えていたい事や財産にして、もつと勉強していかなければと強く感じました。貴重な体験をさせていただいた事を保護者会の皆様に感謝申し上げます。

(銀杏園保護者 佐藤 博子)

12/2

保護者会

昨年十二月、役員会と役員による研修会が行われました。役員会では、平成十五年度事業の実施状況及び収支決算見込みについて、また平成十六年度事業計画・予算等について協議いたしました。研修会は、同日開催の社会福祉事業団由利地区事業部の実践発表会に参加いたしました。発表会では開成園授産棟の「陶芸教室」について、赤光園の「嚙下障害への取り組み」について、管理課給食の「ソフト食への取り組み」について、それぞれ職員の皆さんが実践した研究の成果を発表されました。

感想の声・こえ

口から食べる事の大切さを身にしみて感じました。
軟らかいものでなければならない人、堅めを好む人、それぞれに合わせて作ることは大変だと思いました。
発表会の内容は、個人的にも大変勉強になり役立たせていただいております。

日々努力されている職員の方々には感謝の一言です。

人間の生きる元とも言える「食」について力を入れていることに感心いたしました。仕事とは言うものの健常者では考えの及ばない部分まで気を使っておられるという事に保護者としては心より「ありがとうございます」と言うだけであります。

今後ともよろしくお願ひします。

高齢化社会の進歩に伴った現実の課題として、つぶさに観察の目をむける視点は大事なことだと思う。これらの課題解決策として今後も続けてくれるよう切望する。

利用者のために苦労されている様子がよくわかりました。話によると、他県ではコロニーをなくそうという動きがあるようですが、当コロニーは絶対になくさないでほしいです。

2004にとぶ!



・赤光園 美術クラブ・
カレンダー

平成16年版

完成!!

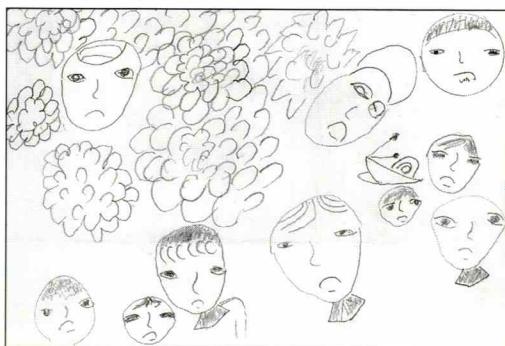
日々・ア・ラ・カルト

日々のひとこま

サイクルで
快進!



♪花という歌に合わせて練習の成果を発表



絵：安井正好

小さな美術館



あったか 交流

おたより

体験実習に来園された
先生より

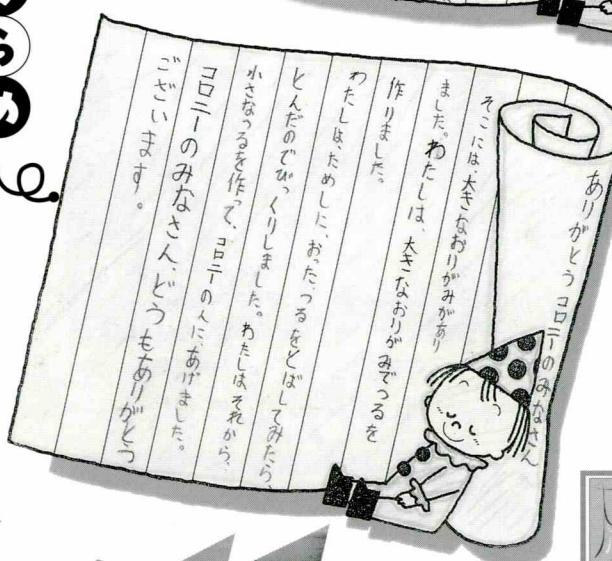
先日は、お忙しい中大変お世話になりました。私は、次の日からまた、学校で生徒達を相手に奮闘しています。土・日には、ソフトボール部を率いて秋田市で練習試合を行つてきました。(結果は聞かないで下さい。)

たつた一日しか、お手伝いさせていたたくことができず、職員の皆様からすれば、「何しに来たんだ」という感じかもしれません、私にとっては、非常に有意義で、エキサイティングな一日ありました。もちろん学ばせていただきた様々なことは、勤務校において、生徒たちに還元すべく、また、生徒たちの心を育てるために役立たせていただきます。



西目小学校

かわいい
生徒さん
かわらの
おたより



交流会

去年の夏から
園芸さ
居するようになった。
目が青くて
しつぽが長くて
とっても
かわいいよ。
朝 しごとに來ると
二ヤニニャーと寄つてくる。
これからも
ずっと
仲良しで
いてけれな。



作：梶原力ヨ子

ソフト食

つてなに？

現在、日本人の死因の四位は肺炎である。近年、高齢者の肺炎では、食物などの誤嚥（本来、食物等が食道を通過するが、気管や肺に入るなどをいう）が原因で起こる誤嚥性肺炎がその何割かを占めていると考えられている。

コロニーの利用者の場合も同様

に、従来の刻み食が原因で誤嚥性肺炎に罹っていた方もおり、安全で、しかも見た目にも美味しい食事の形態はないだろうかということで考えられたのが「ソフト食」だつたのです。

平成十四年の十一月から試行を開始し、診療所、各園の協力を得ながら平成十五年六月より本格的に実施となりました。診療所長の診断により摂食・嚥下の障害があり、ソフト食の指示を受けた方が一四三名おり、全体の三分の一近くを占めております。

普通食の調理をただ単に刻む刻み食は「飲み込みが悪い。」「食物

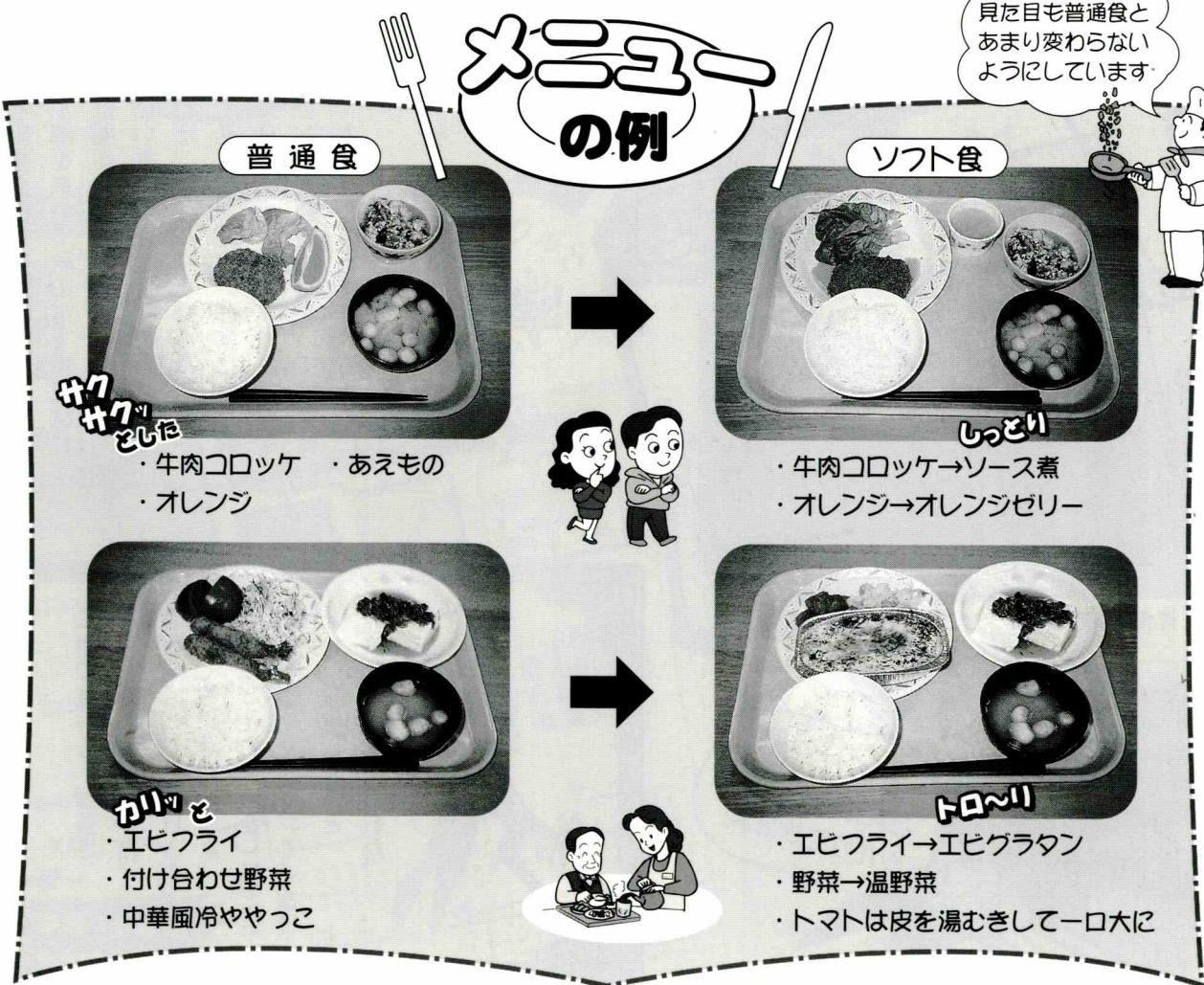
が口の中でまとまりにくい。」等で食べづらいという欠点がありますが、ソフト食は口に取り込みやすく、まとまりやすく、飲み込みやすい料理に工夫されています。

コロニー給食のソフト食を作り上げていく上で、献立、調理の面で工夫してきたことを紹介したいと思います。

主菜となる肉類では、挽肉を三度挽きにしたミンチ肉を使用し、卵や生クリームでなめらかさを出した松風焼やミートローフ、また、軟らかいしやぶ肉を煮物に使用しました。カツ類は軟らかカツやソース煮に、魚類は骨なし魚、野菜は軟らかい食材の冬瓜やかぶなどを煮物にしています。集中管理方式での限られた設備と人員の中で、今後更に安全で美味しく、食べやすいソフト食作りに努力していくたいと思います。



見た目も普通食と
あまり変わらない
ようにしています



介助される

利用者の気持ちは?

介護体験 研修



十一月二〇日、研修委員会主催による介護体験研修が行われました。今回は「入浴」について、職員自身が介助される側を実体験してみると、各園から二十三名の職員が参加しました。入浴介助を受ける時の不安感や職員からの声かけの大切さ等、改めて感じられたようです。

参加した職員の感想を紹介します。

今回の入浴介護の研修では、初めて特浴の介護を「受ける」という貴重な体験をすることができました。シャワー用車椅子にかけての洗体、洗髪、特殊浴槽への入浴と、これまで自分が介護してきたことを実際に体験したことにより、改めて一人一人の心身の状況に応じた介護の必要性を認識することができました。さらに大切なことは、細やかな声かけ（シャワーの湯かげんや洗体の際の力の加減等）をしてもらうことにより、安心感が得られることを実感しました。

今後はこの体験を生かし、様々な場面において利用者の皆さんへ、より良い支援、介護ができるよう努力していきたいと思います。

（銀杏園 高岡 英一）

介護体験研修に参加して、入浴介助を受ける側の体験をさせていただきました。私は、利用者がどのように感じ、何を求めながら生活しているのかを、予想をつけて支援していかなければなりません。しかし、私たちが予想していることとは違つたり、予想していても実際には分かつていなかつたりすることが、おそらくかなり多くあるのだろうと感じました。入浴だけをとつてみても、実際には予想以上に不安感を伴いましたし、体を温める前に洗髪をすることばかり寒いものであることを体感しました。この体験を今後の支援に活かしていくことはもちろんですが、日常の流れに溺れて支援員側のペースで進めていくことのないよう、利用者本位の支援を常に心掛けていきたいと改めて思いました。

（開成園 工藤 美紀）



去る平成十五年十月十五日～十七日、東京ビックサイトにおいて第三

○回国際福祉機器展が開催されました。今回は世界十四カ国六三〇社が出展し、六つのテーマ毎に①移動機器（車椅子）、情報（出版物）②ベッド、移動機器（リフト）③福祉車輛④建築・住宅・施設用設備⑤トイレ用品、おむつ用品、日常生活用品

⑥入浴用品、コミュニケーション機器、住宅・施設サービス、経営情報システム、約二万五千点が展示されました。

福祉機器展への関心は年々高まっているようだ。福祉サービス従事者や企業関係者だけでなく、障害者や高齢者、介護を支える家族など、一般の入場者も目立つておりました。福祉機器は毎年少しづつ改良を重ねて良くなっています。多くの人が多く、いろいろな製品分野において選択の幅が広がり、機能

色も多様化し、価格も三～四年前に比べると安くなっています。また、利用する人に合うよう、いろいろな調整機能がついているものが多く見られました。

テーマ毎にさまざまなセミナーも開催されましたが、その際紹介されたものの中、ある老人保健施設で、じょくそう（床ずれ）予防に包装用に使われている空気の粒「プチプチ」を利用してクッション代わりに使用し、その体圧分散効果は専門家が思つたよりも効果があつたそうです。また歩行器代わりに、折りたたみ椅子を使用したり、手すりとして使用したりと、既製品だけではなく工夫をしていくことも大事であることを感じました。



第30回

国際福祉機器展に

参 加 し て



やデザイン、

（健康運動指導士 高橋 孝幸）

全国グループホーム大会

秋田

で開催

開催スタッフの皆さん
ご苦労様でした



シンポジウムでは、「地域支援を

障害福祉の主流に」を夢見て可能な限り地域での生活を実現させようと

四人のシンポジストがそれぞれの立

場で討議しました。夕食懇親会では、

秋田民謡や秋田銘酒のプレゼント、

更には、秋田県矢立育成園のご好意

で同園が製造販売している秋田名物「きりたんぽ」の詰め合わせが無償

でプレゼントされ大いに盛り上がり

ました。

二日目は、三つの分科会があり、

特に、第二分科会では、利用者本人の立場から鷹巣町で二十二年間地域

生活を送っている種市二郎さんが発

表し、会場から大きな支援の拍手を

頂きました。

秋田大

会は、開

催前から

大変な反響で活気となりました。

全国大会

に満ちた

した。



「自分らしく地域で暮らしていくためには」を、主テーマに十月八日・九日秋田市で第十回全国グループホーム大会が開催されました。

大会には、全国各地からグループホーム入居者や世話人、バッカアップ施設職員等、関係者六百五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

初日の基調講演Ⅰでは、厚生労働省山口障害福祉専門官から「地域で安心して暮らすために」と題して、障害福祉の動向とグループホームへの期待と今後の展望についてお話を

されました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。

五十名が参加し、活発な意見交換が行われました。



善意

台川町 清水 勇藏さん

(故清水ヒデ子さんの保護者)

秋田市 田中 隆一さん

(故田中了子さんの保護者)

鷹巣町 柴田 ヒサさん

(土屋 栄三さんの保護者)

（退所）

十月二十八日～十一月十二日付

開成園あやめ寮 菅原 弘子さん(秋田市)

白光園ひのき寮 村上 一朝さん(秋田市)

白光園かづら寮 佐藤 昭一さん(昭和町)

創生園あかしや寮 篠田 達也さん(本荘市)

赤光園みづき寮 今野 芳雄さん(矢島町)

赤光園みづき寮 浅野 光彦さん(能代市)

白光園ひまわり寮 伊藤由美子さん(藤里町)

（退所）

十月六日付 白光園ひのき寮

土屋 栄三さん(鷹巣町)

金浦療護園へ

十月三十一日付 笠井 重二さん(象潟町)

グループホームへ

（退所）

十一月六日付 清水ヒデ子さん(五城町)

（退所）

ひまわり寮 神坂 鶯子さんの母

ヨシ子さん

つじ寮 須藤 勝史さんの

保護者 勝弥さん

あざみ寮 村上 敬子さんの

保護者 達次さん